

令和7年度 文学部 日本・中国文化学科

学校推薦型選抜 小論文②

○出題意図・解答例

〔出題意図〕

古文・漢文の原文を読解し、解答に求められている内容を適切に取捨して論旨を整理することができているか。また、論旨を十分に咀嚼し、自分の考えを本文の内容と関連づけて的確に表現することができているか。

□

〔解答例〕

学問や文事の名声について、それを求めて世に知られることも、求めようとしていないのに自然と世に広まってゆくことも、どちらも無意味である。親孝行というのはまさに名声や評判と無関係なものであり、特別な教育を受けていない子どもが物心ついた頃から一心に親に献身することや、貴族や富貴な階級の子どもが親の厳しいしつけを守り、務めに励むことなどがそうである。どのような形であつてもそこに打算はない。人に知られず孝行に励んでいた者を、周囲がよかれと思つて公に知らせたところで、それはかえつて本人の純粋な気持ちに水を差すことになりかねないのだ。以上がこの文章の大意である。作者は、見返りを求めないからこそ親孝行は尊いのであつて、自ら望んだことではなくても世間で評判になったり顕彰されてしまったら、それは親孝行のあるべき姿とはいえない、と考えている。

（以下は、右の論旨を踏まえた上で各自の意見を適切に述べること。）



〔解答例〕

昔ある国に狂泉という泉があり、その国の人はみんなその水を飲んで狂ってしまった。その国の君主だけは井戸を掘って水を飲んでいたので狂わずにいたが、国の人々は狂っていない君主の方が狂っているのだと考えて、様々な苦しい治療を強制したため、耐えられなくなった君主は狂泉の水を飲んで自分も狂い、主君も臣下も楽しく暮らせるようになった。私も一人狂っていないのがつらくなったので、この水を飲もうかと思う。作者はこの寓話を通して、世の中がすべて狂気に支配された時、正気と狂気が逆転してしまうことを指摘し、そうした中で正気を保ち続けることの困難さを述べている。

（以下は右の論旨を踏まえた上で各自の意見を適切に述べること）